

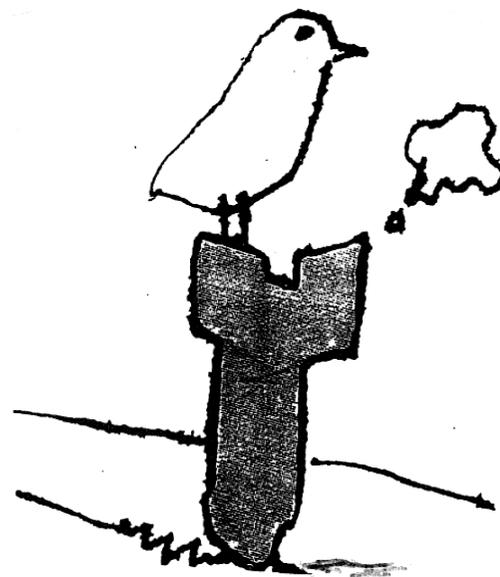
自衛隊のイラク派兵延長反対!

期限延長されれば、

来春から中部方面隊がイラクへ

自衛隊のイラク派遣の期限切れは12月14日。イラク戦争に「大義」がなかったことが明らかになり、派兵国が次々撤兵しているのに、小泉内閣は憲法違反の自衛隊派遣を継続しようとしています。

派兵期限が延長されれば、来春から送られるのは伊丹に総監部をおき、大阪など北陸・東海・近畿・中国・四国の2府19県に展開する中部方面隊であり、信太山・八尾の部隊などです。派遣準備が進められています。



囚われのファルージャ

誰もが、全てのものがファルージャで囚われの身になっている。女性、子ども、家族、歴史、人間性、そして平和が。

そして世界は、米陸軍部隊が市民を殺す様子、どんな爆撃機が使われるのか、どんな兵器がファルージャで試されるのかを、ただ見ているだけだ。世界は死に体になっていて、いかなる感情も、反応も示さない。

あなたはファルージャが意味するものを知っていますか？それは、この世界のどの都市にも当てはまることです。それはヒロシマであり、カプールであり、ファルージャは人間性の漆黒の将来・・・民主制と平和の名のもとに行われる殺戮を意味します。

ファルージャはファルージャの人々のもとにあるものを意味するだけではありません。ファルージャはこんにちの世界のシンボルなのです。大魚などが小魚を食べてしまうような世界の。

沈黙を保っていると、あなたの街が、あなた方の歴史が次の番です。いかにして最新の技術が容易に無実の子どもたちや弱い人々を殺せるかを、見続けなさい。そして次はあなた方の番です。

誰でも、きょうの犯罪に否定的な立場を取る人々が、歴史と人間性に照らして、(あすには)この犯罪に手を貸す者になるのです。誰もが臆病さやおびえから免がられないのです。それがシェイクスピアの言うところの「なすべきか、なさざるべきか」という問題なのです。

ファルージャは泣いてくれることを期待などしていません。ファルージャはすべての良心を呼び覚ますような強い叫びを必要としているのです。

●バクダッド市民の緊急メール (ヨルダンのアンマン滞在中の原文次郎さん=日本国際ボランティアセンター・イラク現地調整員から送信されてきたもの)